

令和2年度 外部評価委員による評価表

達成度 A ほぼ達成(8割以上) B 概ね達成(6割以上)
C 変化の兆し(4割以上) D 不十分(4割未満)

学年 教科分掌	担当	No.	令和2年度重点目標	外部評価委員 による評価 (A・B・C・D)	外部評価委員の意見及び次年度への提言
学 年	<p>【学部・高校各学年・分掌共通の指摘事項】 自己評価を見ると、中高を通して転学者(N高校や通信制の人気などが委員会では話題にのぼった。吉本興行やナベプロの通信制(オンライン)高校もR3年度発足したという)や問題を抱える生徒・不登校等のケア・対応の課題があること(苦慮していること)が指摘されている。この課題は、生活部の課題として把握されているが、むしろ高校教育の環境が大きく変わって来ている中で、生徒が自分事として学ぶ意義・意味を掴んでいくカリキュラム・授業の必要性を示唆している(その意味で、女性の目線で、生き方・進路を考えることを重視してほしい)。これからの社会の変容のなかで、従来の基礎基本の充実だけでなく、「基礎基本+自分らしさ・自分事の学びを学習デザインしていくこと」が求められる。可能性のある教養科学科の発想をこの考え方で発展充実させ、カリキュラムや教育実践で工夫してほしい。以上からすると、教務部と生活部を総合的な視点で捉えて相互連携して行くことが考えられ、ポイントは「個の学びの最適化」戦略であり、「生徒の学び」を計画・実施・評価(振り返る)する視点であると思う。 令和2年度3年生は2年時に大学入学共通テストの民間英語と国・数記述式の延期・再検討で混乱し、しかも3月からの新型コロナ感染対応で休校が長期化しており、3年次の学習環境を特に配慮・ケアすることが求められたが、コロナ禍のなかで大学合格者等で大変健闘できたことは学校の努力の賜物と評価したい。また、令和2年1月に静岡学園は第98回全国高校サッカー選手権大会全国優勝という快挙を成し遂げ、静学の名を全国に知らしめ、入学志願者増などに繋がっていることが見て取れるので、今後はこのエネルギーを活かして、建学の精神で教養科学科を発展充実させることを期待したい。</p>				
	中学 部	1	生徒・保護者から信頼される、安心・安全な学びの場を提供する。	A	良く対応できている。
		2	生徒に、将来の静学のリーダーに相応しい生活習慣と学習習慣を身に付けさせる。	B	大変な環境下で臨機応変に対処できている。コロナ禍、横のつながりだけでなく、縦のつながりの重要性を改めて感じました。コロナ禍にあっても密を避けてかかわれる活動を模索したい。
		3	総合的な学習の時間、SGT、特別活動を充実し、「知る」「考える」「表現する」を楽しめる生徒を育てる。	B	工夫がよくなっていて良い。 コロナ禍から代替策につき、関係の先生方は大変苦慮されたと考えられる。
	高校 1年	4	生徒が安心して生活できる環境を築き、学校生活の基礎を確立する。	B	学校生活の基礎基本を身に付ける時期に、休校となったことは生徒に大きな影響があった。密を避けてかかわれる活動を模索したい。委員会の中で「オンライン教育だけで十分ではないか」という生徒もいる」という発言があったが、オンラインでは代替できない対面授業の良さがあるのも確か。昔、知り合いが「教師は教室力を磨け」と話していた。教室では、人間と人間のぶつかり合いがあり、そこでは学科を超えた学びもある。学校とは知識を教えるだけではないという観点で、自信をもって授業を行ってほしい。
		5	授業・家庭学習など基本的な学習習慣を確立し、高校での学習のベースを築く。	B	大変な状況で、良くできたと思う。
		6	部活動・SGTなどの様々な活動に積極的にチャレンジさせ、それらの経験を通じて人間力の向上を図る。	B	朝テストの習慣化に対する管理手法について、数値化できると良い。
	高校 2年	7	生徒および保護者が安心できる学校生活を提供する。	B	コロナ禍であったが、対面面談を実施したことは安心できる学校生活を提供できた。環境変化が著しい中、良くできている。コロナ禍の中、心のケアは重要。寄り添う姿勢を保ってほしい。
		8	生徒に2年生としてふさわしい学習習慣を身につけさせる。	B	学習意欲を堅持させる工夫にトライしたい。
		9	生徒の進学に対する意識を高める。	B	環境変化は、全国のどこの高2も一緒である。Withコロナと対峙して、自分なりに進路を見極められる正確な情報提供をきちんと実施して欲しい。
	高校 3年	10	安全安心な学校生活を送る。	A	大変な環境下で、よく対応できていると思う。
		11	学力を伸ばす。	B	最終的な結果が伴って、高1からの伸び方が良い方向に行けて良かった。
12		明確な目標を抱いて自己実現を果たす。	A	コロナ禍にあることをピンチではなく、チャンスととらえ、休校中の補習を多くの先生方の協力を得て実施できたことは、教職員にとっても生徒にとっても有意義であった。 多くの生徒が希望の進路を実現できたのは称えたい。希望に届かなかった生徒の分析をした方がよい。入試改革に関する情報収集はより細かく。	
教 務 部	教 務 課	38	教務課から全教員への周知事項を徹底し、全教員が共通認識を持って教育活動を行ない、教育活動の円滑な推進を図る。	A	待ったなしのコロナ対応を推進することで、3課のチームワークを向上させたことは素晴らしい。ポイントは、メールの活用と声掛けの妙にあると感じました。直接の声掛けは大事である一方、業務効率を図るためには、メール等の連絡配信後に、受け手が返信しやすい、返信したくなる情報提供の工夫も必要を感じる。中長期のビジョンとの関連で目標を設定し、検証する観点を期待したい。チームワークが発揮できるよう今後も努力を。
		39	教務備品、緑風塾・特別活動、学校行事について、教育活動が滞ることがないように、先を見通しながら管理・企画・情報配信を行う。	B	目標[2]が、活動内容になっているので、「管理する」ことを目標として、管理項目に対して、数値管理できるようにすると良い。
		40	教務課内の協力体制の強化に加え、日課業務について情報管理課や研修課とも協力体制を築き、関連する業務を共有し協力体制を整える。	A	大変よくできていると思う。
	情 報 管 理 課	41	静岡県「ICTを活用した教育」推進計画・法人の新高校整備計画・情報セキュリティ基本方針・インフラ整備提案依頼書などに従った情報システムを構築する。	A	通信設備等の端末で、費用としておおよそどれくらいになるのか把握できれば、今後の対策も具体的な方向性が見出せると思う。費用対効果のデータが収集できると今後管理しやすくなる。ICT活用は今後の学校運営の肝となると思う。先を見据えて推進したい。
		42	教務課・研修課・進路課と連携し、各アプリケーションにおける操作、データ連携を高める。	A	IT技術に関する個々の能力についてレベルアップを図るような支援体制も早急に進めて欲しい。システムはより使いやすく構築することが重要。セキュリティやシステムダウンに対する備えも。
		43	教員のデジタル格差の是正と、データ処理技術の普及。	A	通信機能の強化、緊急時のバックアップ等、接続不良時の対応を構築する必要性を強く感じる。「情報」に関しては今後ますますウェイトが増してくる。教員が分からなければ生徒にも教えられない。リテラシーとしての教員間のレベル向上と格差是正は不可欠。そのための研修などを手厚くやってほしい。
研 修 課	44	教員自ら授業に対する検証を行い、授業改善および授業力向上を図る。	B	改善した試みに対して、評価できる。コロナ過にあっても実施できる研修の在り方にも目を向けていきたい。	
	45	他校訪問や様々な校外研修・校内研修により、教員の資質能力の向上を図る。	B	新型コロナウイルス禍の中で、対外的な交流の場が減るのはやむを得ない。少なくとも今年度いっぱいはその状況が続く。コロナ禍は、はや1年間が経過した。「できない」「行けない」ということではなく、「その中で何ができるか」を積極的に考えてほしい。今後は、Withコロナ対応となるので、施策をよく吟味して次年度はリセットする覚悟で対応願います。	
	46	教務部の各課と連携し、円滑な業務遂行を図る。	B	回数、出席率などの数値管理にすること、内容に対するフィードバックを実行して欲しい。	

分 部	生活部	生徒指導課	47	生徒の自主性、主体性の育成を目指した生徒指導。	B	マスク作りなどできる範囲での活動を今後も考えてほしい。 2022年4月からは18歳成人となることも念頭におき、高校生の「心とカラダ」の学びを支援する活動をカリキュラムに位置づけることを提案する。
			48	学校生活における基本的な生活習慣の改善サポート。	B	各種大会の中止等、やむを得ない事情があったと考えられる。想定外の事態の中で、よくできている。
		保健衛生課	49	健康的な生活のために必要な自律的態度と健康維持・増進を図る習慣を養う。	A	良く管理されている。コロナ禍、生徒の心の在り方支援に力を入れ、様々な工夫をした取り組みをしていることは素晴らしい。
			50	感染症の予防及び対策の充実。	B	コロナ対策は徹底されていた。今後も引き続き支援体制維持が大変だと思う。人員、設備共に補強が必要な場合に備える準備も行っておくことを提案する。少なくとも今年度いっぱいはいは全力を。マスク着用、手洗い、手指消毒といった感染対策の基本を徹底するとともに、「3密」回避の意識を根付かせるように。特に若者は重症化しないためか危機感が薄い。部活動などでの濃厚接触も留意。
			51	教育相談体制の充実といじめの早期発見と対策。	A	年々、件数が増加していると思うが、よく対応できている。「こころの健康実態調査」を基に丁寧な対応を心がけてほしい。
		安全整備課	52	防災安全体制の強化。	A	現在はコロナに目を奪われている感がありますが、本県は東海地震発生心の心配があります。体制の強化を引き続き進めたい。
	53		学校設備の維持保全。	B	防災アプリは使いこなしてこそ役に立つ。日ごろから使い方の習熟を図ってほしい。	
	進路部	進路指導課	54	進路シラバスに基づいた進路指導計画を実施するとともに、進路指導室の活用を促す。	B	環境変化にも順応しながらよくできた。
			55	大学進学数値目標達成のために、補講を計画・実施するとともにテスト分析とフィードバックの仕組みを構築する。	A	よく支援できている。
			56	大学入試改革に関する情報収集を行い、進路指導計画へ迅速に反映させる。	B	課題が細かく出てきたように思う。生徒も保護者も関心が高いはず。積極的な情報収集で有益な情報提供を。
		学び支援課	57	SGT外部講師講座は、毎年新しい講座を加えると同時に見直しを図りながらコンテンツを増やし、体験を通じて学ぶものから学術的な講座まで広く提供するように努める。	A	大変よくできている。SGTは静岡学園の文化であり、伝統であると思います。引き続き育んでいきたいと思ひます。
			58	SGT内部講師講座は、授業の枠を超えた分野の教養系講座をなるべく多く設置出来るように事務職員を含めた職員の協力をお願いし、生徒の授業以外の学びを支援するように努める。	B	特徴が反映されている。次年度以降も期待しております。
			59	緑風塾におけるClassiのより効果的な活用方法を検討する。	B	緑風塾の意義を、先生方が再認識されるようにして欲しい。
	総務管理部	総務管理管理課	60	行事を丁寧に遂行する。	A	問題なく遂行できた。
				ご縁を結び、絆を深める。	A	本年度同窓会のリフレッシュ、学校案内の刷新など積極的な取り組みが行われました。今後も機をとらえ、生徒・保護者・OBの意識を引く工夫を推進してほしい。人の「縁」はどこでどう役立つかわからない。さらに活性化してください。
			61	良質な文化資本を蓄積する。	B	コロナ禍の中で、芸術文化を直に鑑賞することは難しくなっているが、映像などを使って疑似体験することは可能。大変な環境下で、よく対応できている。そうした取り組みを重ねてほしい。
		図書課	62	読書リテラシー、資料活用のための情報リテラシーの育成。	A	良く管理ができている。
			63	生徒図書委員会活動の発展支援。	A	良い施策の対応で、素晴らしい展開ができている。
			64	図書館利用活性化のための環境整備と広報活動を充実させ、家庭での生徒の読書推進をはかる。(コロナ休校対応＝貸出数から読書推進にシフトする)	A	環境変化に応じた対策で、良く管理できた。
国際交流課		65	国際交流プログラムを活性化させ、生徒に様々な機会を提供する。	C	コロナ禍の中で渡航は無理。少なくとも今年度は続きそう。世界の航空会社などで組織するIATA(国際運送航空協会)はコロナ以前の需要に戻るのには2024年と予測している。若年者はワクチンの接種対象から外れているため、接種証明が求められる場合は影響が長引くかもしれない。国際交流は影響が長期化することをにらんで対応を図る必要がある。行き来ができないのならオンラインの活用を進めてほしい。ゼロから関係づくりを構築するのは難しいが、関係校との間なら可能では。工夫が必要となるが、国同士の首脳会談もオンラインで行う時代。さらにオンラインなら特定の生徒に限らず、広く門戸を開けることもできるのでは。	
			中・長期留学生へのケアの充実。	C		
		66	スケジュールの視覚化と業務の共有。	B	重要管理項目と捉え、次年度に向け、リセット願ひます。	
事務局	総務課	70	財務状況の改善。(予算赤字幅の縮小を図る)	B	中長期計画の中で、修繕費などの圧縮を図る施策を準備願ひます。大変な状況で、今年度はよくできたと思う。学校経営の基盤となるので、長期見通しをもって、財務状況の改善を一層図っていただきたい。	
		71	施設・設備の更新、修繕工事等の計画的な実施。	A	厳しい環境下でも良くできている。	
	学務課	72	学納金の確実な収納。	A	良く管理されている。	
		73	入学定員の確保。(中学90, 高校360)	A	人気校に返り咲きです。恥じぬよう、変化に対応した事務局でいて下さい。本年度様々な工夫・改善により、私学志向が高まっています。本年度だけに終わらせることのないよう、安定した定員確保に努めたい。	
		74	総務管理部との協働。	A	コミュニケーションが良く図れている。引き続き協働体制に不備の無いように業務の遂行をお願いしたい。	

教科

国語	13	自らの目標に向かって主体的に学習に取り組む生徒の育成。	B
	14	新入試や新指導要領への対応を見据えた、効果的な指導方法の開発と授業改善。	B
社会 (地歴・公民)	15	生徒の学ぶ意欲、主体的に学習に取り組む姿勢の育成。	A
	16	新入試や新指導要領への対応を見据えた授業の改善。	B
	17	大学入試に対応できる学力の育成。	A
数学	18	自ら学ぶ意識を持ち、主体的に学習に取り組む生徒を育成する。(指導に関する事柄)	A
	19	教員の教科観の統一、授業内容・指導方法・評価方法を検討する場として、教科部会を機能させる。(組織に関する事柄)	B
理科	20	緊急時の授業補填事例の蓄積と対策ガイドラインの検討。	B
	21	新入試および新学習指導要領を見据えたカリキュラムの作成および授業改善。	B
英語	22	生徒の学力向上のため、組織的な指導体制を確立させる。	B
	23	共通テストに向けたリスニングの指導方法を確立させる。	B
	24	高校全学年にてオンライン英会話を実施運営し、資格試験におけるスコアの伸長を図る。	A
保健体育	25	授業計画に沿って共通理解の中で、生徒の運動能力・体力向上に努めるとともに、挨拶・礼儀を重んじ協力性を高めさせる。	B
	26	新体カテストで優良校に入れるよう授業内での基礎体力づくりを充実させる。	B
	27	教科書上での内容を自らの生活に生かせるように知識の定着を図る。	B
	29	休校中においては生徒ひとりひとり体を動かし健康維持に向けた運動をさせる。	B
技術・家庭	30	授業を通して生活者としての問題意識を持たせ、広い視野に立つてものごとを見る姿勢を身につけさせる。	B
	31	実技・実習を通して生活的自立のスキルを身につけ、協働の力を育む。また、生活に役立つ作品作りを通して、ものづくりの喜びを知らせる。	B
	32	生徒が充実して安全に実習、製作に取り組めるように実習室の環境を整える。	B
芸術	33	生徒の授業での作品を展示したり発表したりして、広く芸術活動の普及に努める。	A
	34	芸術活動の知識、技能を習得しながらその文化を理解し、芸術に慣れ親しんでいく素養・姿勢を築いていくことができる。	A
	35	紙面やインターネットを使い、休校中の生徒への芸術活動の継続を支援する。	B
情報	36	生徒一人一人の好奇心を高め社会のリーダーとしての人材育成に必要な情報機器を、表計算による統計処理や情報整理、プレゼンテーションによる表現の道具として適切に活用できるように育成する。	A
	37	情報の収集・処理・表現を通して広くコミュニケーション能力を養い情報社会に積極的に参画する態度を育てる。	B

【教科に関しての総論的コメント】

私学は建学の精神を活かして学習指導要領に準拠しながらも、特色ある教育課程編成を積極的に行っていくことが期待される。とりわけ、今回の教育課程改革は、新学習指導要領・総則にあるように、教科・領域等の「見方・考え方」、「教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成」、「カリキュラム・マネジメント」、「学校段階等間の接続」等を総合的に捉えた枠組が求められており、Society5.0時代に向けた社会に開かれた(子どもの)学びを実現していくためのチーム学校の構築や教師の役割の再検討が求められている。

教科(部会)が教科固有の専門性に閉じて終わるのではなく、当該教科の専門性から、「タテ」(中高大の学校段階)と「ヨコ」(各教科の関連性、総合的な探究の時間)の観点から、全体のカリキュラムにどう組み込んでいくのかを考える必要がある。そのためには、お互いの教科と他の教科の取り組みや課題を可視化し、関連付けていく作業を行うことからはじめていただきたい。次年度には、このことを意識した教科-全体のカリキュラムの可視化の取り組みを工夫してほしいと思う。

学びのリフレクション(振り返り)とともにこれから重視しなければならないのは、「心と身体の健康」の育成支援の視点である。後者については、学力の3要素を参考にして、「心と身体」について知識・技能を学び、それを活用し、探究する活動が重要である。例えば、文部科学省サイト「学校保健の推進」(http://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/index.htm)では、「学校保健とは、学校において、児童生徒等の健康の保持増進を図ること、集団教育としての学校教育活動に必要な健康や安全への配慮を行うこと、自己や他者の健康の保持増進を図ることができるような能力を育成することなど学校における保健管理と保健教育であり、文部科学省においては、これらの充実のために様々な施策を推進している。

サイトでは、①薬物乱用防止教育、②依存症(行動嗜癖)に関する教育、③受動喫煙対策、④がん教育、⑤健康診断、⑥アレルギー疾患対策、⑦感染症対策、⑧学校歯科保健、⑨健康観察、⑩心のケア、⑪健康教育関連資料、⑫保健主事、⑬養護教諭、⑭学校 環境衛生、⑮労働安全衛生、⑯いわゆる脳脊髄液減少症に関するもの、⑰ヒアリに関する情報を提供している。

2016年から導入された18歳選挙権の観点だけでなく、2022年4月からは18歳成人となることも念頭において、高校生の「心とカラダ」の学びを支援する活動をカリキュラムに位置づけることを提案したい。